

ルニ及テ柳澤吉保ヲ封シ秋元喬朝ヲ川越ニ徙シ享保中吉保ノ子吉里郡山ニ轉封シ勸番伎配ヲ置キ士隊騎歩卒ヲ統ベ府城ヲ守ラシメ代官ヲシテ限政ヲ分治セシム王政革新伊斐府ヲ置既ニシテ廢シテ縣トナシ又山梨ト改稱ス

〔古事記開中〕次沙本混古王者開化皇子彦坐王子中略甲斐國造之祖

〔先代舊事本紀十〕甲斐國造

經向旧代朝行景世狹穗彦王三世孫臣御津彦公此子鹽海足泥定賜國造

〔續日本紀元八〕養老三十七月庚子始置按察使令中遠江國守正五位上大伴宿禰山守管駿河伊豆甲斐三國

豆甲斐三國

〔三代實錄清和〕貞觀七年五月十六日丙申是日置諸國介掾甲斐略中今置介略中先是三月九月太

政大臣臣下參議已上奏言謹案令條上國有介中國無介略中今件等國或前爲上國未備介職或國

務稍繁官員滄少略中欲請伊斐調防漸備介職略中詔從之

〔鎌倉大草紙上〕甲斐國の住人に逸見申務丞有直也云者あり詔より逸見武田小笠原三家は甲州

の大將なりしかば頼朝の御時に加賀現小笠原は信濃國の守護となり信州にうつり給ひ甲州

半國石澤五郎に玉はりそれより代々初は本郡を知行有東郡は加藤西郡は逸見給はれしを後

には一圓に武田辨領して加藤は被官に城逸見は公方へ御奉行の禮地西郡の名字の地計知行

有しかばかかにもして武田を絶して甲州一圓に守護せむと持氏公へ盡忠勸ける今度禪秀

逆心して京鎌倉より退治被成しかば武田安藝守入道明庵は禪秀の小舅也千葉修理大夫兼胤

は聲地兩人ともに持氏の寵臣二階堂三河守は逸見縁者なれば是を頼み色々甲斐の事望申け

る法程に申斐の國は關東の御分國にて基氏の御所の御時より鎌倉へ出仕申といへども明庵

も禪秀の事に恐れ不參候間鎌倉より御勢を被向大將以上杉淡路守憲宗也千葉は早々降參す